



日本銀行松山支店 支店長 真鍋 正臣氏

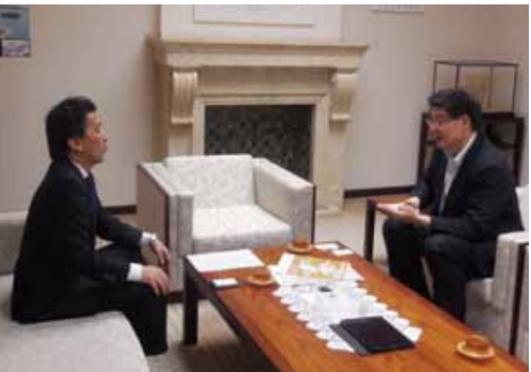
# 地域の「宝の山」を活用して 経済の活性化を！

日本銀行松山支店 支店長 真鍋正臣氏 対談

「1万円札って、原価はいくらですか？」

**青野** 今回は、日本銀行松山支店長の真鍋正臣様にお話を伺います。日銀の支店長さんと言うと少し遠い存在のように思ってしまうのですが、真鍋支店長は愛媛県、しかも旧東予市のご出身なのですね。

**真鍋** はい、旧東予市は周桑郡の生まれで高校時代まで東予で過ごしました。



店舗ロビー 【写真提供：日本銀行】

高校は今治西高で陸上部に所属、毎日電車通学していました。高校卒業後、東京の大学に進み、それ以降ずっと愛媛を離れておりましたが、一昨年、縁あって松山支店長に就任し34年ぶりに故郷の地に住まいを構えたということになります。

**青野** 久しぶりの故郷はいかがですか？

**真鍋** お正月やお盆で帰省はしていましたが、日銀の支店長という立場で愛媛に帰り、愛媛の様々な経済界の方と

お話をさせていただいているなかで、すごく発展したなという印象を受けています。東予は工業の町、中予はサービス業・教育の町、南予は柑橘・水産の町と、それぞれのエリアが各分野で頑張っており、産業として非常に良いバランスが取れているのではないかと思っています。

**青野** 地域の産業については後ほどお伺いするとして、そもそも日銀と言えば「銀行の銀行」というイメージはあるのですが、なじみのない方も多々いると思います。まずは日本銀行について基本的な事を教えてくださいませんか？

**真鍋** 日本銀行は全国で32の支店がありまして、四国ではこの松山の他に、高松と高知に支店が、徳島には事務所があります。松山支店が出来て84年になります。いわゆる「銀行の銀行」というのは一部の業務です。他に「政府の銀行」という役割と「紙幣の発行」という役割があります。

**青野** 「紙幣の発行」というと、お金を作っているという事ですか？

**真鍋** 紙幣の印刷自体は日銀とは別の

組織である「国立印刷局」がしていますが、日本銀行はその紙幣を買って発行する役割を担っています。皆さんが手にする「お金」は、発行される前の段階では単なる紙切れでしかなく、日銀の窓口から銀行券として発行されて初めてそれが「お金」として流通するということになっているのです。

**青野** それは初めて知りました！紙幣を印刷局から買った段階ではまだ紙切れなのですか。まさに、お金が生まれる瞬間というわけですね。因みにお札1枚の原価ってどのくらいするのですか？

**真鍋** 日本銀行の26年度決算では銀行券製造費として15億円を計上し、国立印刷局に30億枚発注しているのですが、単純に割り算すると平均単価は1枚17円程度です。最近は偽札防止技術も高度になり、少しその単価も上がってきました。

**青野** そうなんです。日本銀行の役割を聞いてみると、私たち一般市民は日本銀行に行く機会はずいずいということでしょうか。

**真鍋** いえ、一般の方も来られる事があります。例えばお札が破れたり汚れたりした場合、新しいお札と交換出来ます。また交通反則金などを納めに来られる方もいらっしゃいます。

**青野** そんな利用の仕方もあるんですね。ところで、日本銀行と言うと最近特にニュース等でもよく聞く「マイナス金利」ですが、これは私たちの生活にどういった影響をもたらすものなのでしょうか？

「目的は世界的な競争力を強くすること」

**真鍋** 「マイナス金利」は銀行に預けている個人の方の預金がマイナスになるというわけではありません。金融機関が日銀に持っている当座預金の金利の一部がマイナスになったということです。今、ものの値段が下がっているのにお金の価値が変わらないというアンバランスな状態が続いています。そのデフレから脱却して世界の中の競争力をつけることが日本にとっては大切なのですが、なかなかそれが実現に向かっていません。マイナス金利はそれを解消する為の日銀の手段なのです。

**青野** 経済が良くなれば、私たちの生活にも反映されてくると思うのですが、

それに伴って、金利が上がるといふ事はあるのでしょうか？

**真鍋** 金利が上がるといふ事は経済が成長しているという事です。経済成長の指標となるGDP(国内総生産)を見た場合、80年代では4%あったものが、今や日本のGDPは0.2%程度まで落ち込んでいます。中国は6%、ヨーロッパでも1.5%という数字ですが、せめて日本もアメリカと同じ2%程度までには回復していかなければと考えています。

**青野** 金利も経済成長に伴って変動していくということですね。日本も昔のような経済成長を取り戻せば良いですが、その為に必要な事は何でしょうか？

**真鍋** 「設備投資」と「労働者の数」と思っています。しかし、ただ設備投資をすれば良い、人を増やせば良い、というわけではなく、それに値するだけの事業の構築が必要です。その為には若い人たちが創業出来る環境も必要ですが、今の日本はファンダメンタルズ(※注1)が非常に不安定です。為替レート一つとっても、欧州債務危機が騒がれた2010年から2012年は円高が進みましたが、その後3年間は円安で推移し、ここきてイギリスのEU離脱でまた円高基調になっています。(※取材時：6月末現在)

**青野** 「円安」になれば、経済も強くなるという事ですか？

**真鍋** 全ての業種で「円安」が好材料になるとは限りません。日銀の目的としているものは「円安」にすることで、あくまでも世界的な競争力を強くする事にあります。その為には物



価を安定させなければならぬ、そしてその手段が「円安」という事になるのです。

**青野** 為替の変動と言えば、先日の熊本地震などでも為替に影響は出たのかもしれないですが、そのような有難の際に金融機関はちゃんと機能するのでしょうか？

**真鍋** 有事の際に、まず一番大切な事は安全の確保ですが、次に大切な事は普段の生活を早く取り戻すという事だと思えます。有事においても経済活動が滞りなく続けられる為に日本銀行では業務の継続がしっかりと出来るように「私たちは有事の際にこういうことをやります」という広報活動も行っています。支払手段である銀行券を安心して使っていたらどうかという観点からBCP

(※注2)も考え、皆さんの生活の基盤が揺るがないよう各金融機関にも働きかけをしていく責任も果たします。

**青野** この地域には南海トラフ地震といった不安要素もありますが、冒頭で少し触れましたこの地域の未来について、アドバイス等いただけますか？

**真鍋** 東予地区は様々な可能性を秘めていると思います。今や全国の人も「今治」を「こんじ」とか読む人はいません。それだけ造船やタオルは全国区になりましたし、サイクリングやFC今治の話題等、今治というブランドが全国的に話題に上る事も多くなりました。こういった好材料を各市町村が活かに活用して人を集めていくかが肝心です。先ほど必要なこととして挙げた「労働者の数」の観点から言うと東予地区の有効求人倍率は1.7倍と愛媛県の中でも特に人手不足の地域になっています。一方で今治人口の1.7%は実は外国人で、これは愛媛県内平均の2倍の数字です。これからはこういった外国人の人たちとも協力しながら産業を作っていくかなければなりません。愛媛、東予にはまだまだ「宝の山」がありポテンシャルはあると思います。景気の波はありますが、若い人たちはそれぞれの業界で親の世代を超えるんだという気概をもって頑張ってくださいね。

**青野** 次の世代が活躍出来る環境づくりが大切という事ですね。私もこの地域の未来の為に頑張りたいと思います。今日はお忙しいところありがとうございました。

**真鍋** こちらこそ、ありがとうございました。

※注1：ファンダメンタルズ＝国や企業の経済状況を表す指標。経済成長率、物価上昇率、財政収支等がこれに当たる。

※注2：BCP＝Business Continuity Planの略で災害や事故等不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめたもの。



店舗外観 【写真提供：日本銀行】

